

# 「未来の自分を話してください」

## 企業判断はこの学生に先行投資できるか

「女子学生応援セミナー」（主催・中央大学学員会女性白門会）は昨年12月6日、中大多摩キャンパスで行われた。関心の高いテーマとあって会場は満席。第1部は講演、第2部では内定者によるパネルディスカッションが行われた。

### 女子学生応援セミナー 講師 平野恵子氏 第20回WINGの会

学生記者 山下蛭（経済学部1年）

毎年人気のあるこのセミナーは、就職活動が始める女子学生に対し、将来を見据え、就職を考えるにはどのようにしたらいいかをアドバイスするもので、講師はキャリアコンサルタントの平野恵子氏＝写真。このセミナー、3回目の登場である。

#### 第1部

#### 講演

平野氏は、志望動機は未来の自分を語ってください、と助言した。目指す企業の事業計画を調べ、自分がどれくらい貢献できるかをアピールする。現行の事業展開に理解を示す、推進者になるといったことに、企業はさほど興味を示さない。採用はリスクの高い先行投資です。投資に見合う人材か否かを見ています。企業の事業計画を調べるには、有価証券報告書や『就職四季報女子版』（東洋経済新報社刊）などが参考になる。

面接のアドバイスでは、例えば営業・販売など特定した職種を敬遠する姿勢は、採用の可能性を狭めることになる。自ら苦戦を招くようなもの。

社員がどの仕事に適しているか。それを決めるのは企業であって自分ではない。入社して数年間は「現場」を知り、モノや人の動きを学んだほうが勉強になる。

面接官は、困難をいかにして乗り切ったかという経験を聞きます。そこに人間性が出るからです。

講演中、聴講する学生は聞いているだけにとどまらず、平野氏のアイデアによりテーマ別に隣席や前後の席の人たちとグループディスカッションをして、学生一人ひとりが自らの考えを話した。グループでの話し合いは2度行われた。



#### 第2部

#### パネルディスカッション

内定女子学生が本音で語る就職戦線の舞台裏。参加した学生は銀行、生命保険、ゼネコン、メーカーに内定した4人だ。就活生が直面した問題をテーマ別に話した。

##### ●面接と面接の間の過ごし方

「普段行けないような、ちょっとおしゃれなカフェに行って、テンションを上げていました。それで、そのテンションの上だったまま会場へ行って面接を受けました」

「面接会場に向う途中、貧血で倒れてからは、なるべく休むようにしていました。就活は終盤になるにつれて体力勝負の側面もあるので、体調管理が大切です」

「図書館、ファミレス、カフェ。眠っても構わないようなお店では少し寝ました。大学近くの一人住まいから、朝も帰りも満員電車で揺られると疲れます」



「カフェに入っても、エントリーシートだけはそこで書きませんでした。家で心を込めて書きたいと思ひまして」

### ●身だしなみ

「違和感がなければ普通でいいと思います。私は靴に気を付けていました。100円ショップにある泥落としをバッグに忍ばせて、雨の日は靴を磨きましたね」

「その社員になったつもりで、お客さまの前に立つことができるような服装を心がけていました。香りにも気を使いましたね。変な匂いだと思われると、あまり良い印象を持ってもらえないかと」

「Yシャツのアイロンかけは必ずしていました。たまにヨレヨレのシャツを着ている人を見かけますが、私から見てもあまり見栄えがよくなかったです」

「企業や業種によっては、こういう服装の方がいいという噂もあると思いますが、そんなことはないです。違和感がないこと、清潔感があることが大切です」

### ●面接で役立ったこと

「私なりに“面接振り返りノート”を作っていました。うまく答えられたことは赤ペンで、あまり反応がよくなかったこ

とは青ペンで。次の面接につなげました」

「企業説明会に行ったことですね。自らの足で直接出向くことで、予測や情報とは違った社風や社員の雰囲気などを感じることができました。靴を2足つぶしました」  
「先輩訪問です。先輩に聞いていたことが、面接の質問で出てきたときは、聞いておいてよかった!と思いました(笑)」

「社会人になったサークルの先輩から話を聞いたことです。企業の裏事情まで詳しく教えてくれる先輩もいたので、とても役立ちました」

### ●誰からのアドバイスを大切に？

「やはり両親ですかね。あとは先輩。サークルで私をよく見ていてくれていると思いましたので」

「私は、自分のことをまったく知らない人に第一印象を聞いたりしました。例えば説明会で知り合った人とかに、私ってどんな印象だった?って」

「社会人と話すことは大切です。話し方、敬語の使い方。学生同士のおしゃべりとは違って、勉強になります」



## 電子書籍アプリ『白門書房』

『白門書房』は、中央大学が発行する広報誌を集めた、電子書籍配信アプリです。

『HAKUMON Chuo』のバックナンバーはもちろん、これまで印刷物のみで配布していた中央大学の大学案内誌や学部ガイドブック、大学院・専門職大学院案内、附属学校案内などを、電子ブックの形式でダウンロードできます。

利用方法は簡単。iOSの場合はApple Inc. が運営するApp Store (アップストア) から、Androidの場合はGoogle Inc. が運営するGoogle Playから無料でダウンロードできます。App StoreおよびGoogle Playへは、無線LAN (Wi-Fi) を通じてどこからでもダウンロードできます。

『白門書房』ダウンロード後は、インターネットへの接続環境がなくても、電子ブックを開くことができます。

過去のバックナンバーや他の媒体を読みたい場合は、4GやWi-Fiを通じて何冊でもダウンロード可能です。

本電子書籍・ドキュメント配信システムは、2015年3月現在、86冊の大学広報誌を用意しており、今後も、新刊本発刊次第、順次電子ブックで提供する予定です。

『白門書房』アプリについての詳細は、以下のサイトよりご覧いただけます。

iOS版

<http://itunes.apple.com/jp/app/id413465097>

Android版

<https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.documentcontainer.web>

※Android4.0未満の機種ではご覧いただけませんので、ご注意ください。

iOS版 ニューススタンド (2015年リリース)

※定期刊行物である『HAKUMON Chuo』、『中央大学の近況』についてのみ、こちらでご覧いただけます。